

チーム連携での離床は重要だが・・・

- ① 一人では難しい。
- ② チームで離床を進めるためには？
- ③ 重要性はどこまで浸透している？
- ④ 効率的にチーム介入する方法は？

問題は様々である・・・



離床支援チーム

Early Mobilization Assistance Team:E-MAT

- ・離床が難渋しているケースに対し、多職種で構成されたチームが、離床支援を行う。
- ・チームコラボレーションによって、離床を効率的且つ、円滑に進めることができる。

熊谷総合病院

E-MATがある施設のチーム連携の現状

①なぜ結成しようと思ったのか？

- ・平成25年8月から始動
- ・リハビリテーション科科長と看護部長の日々のコミュニケーションの中より自然発生した

②活動の実際

- ・全病棟科長とリハ科、NST担当管理栄養士、薬剤師が集まってラウンドとカンファレンスを開始
- ・継続すること、煩雑な業務の中に如何に組み込んでいくかが難しい

③チーム連携の変化

- ・病棟スタッフのADL向上への意識改革
- ・看護師の患者自主トレーニングメニューへの参加
- ・リハビリ依頼患者の増加

④E-MATを取り入れた際のコツ

- ・各所属、上司などの理解が不可欠
- ・病棟を表裏で操る人間の動きをうまく導入する
- ・「離床は必要」but「診療報酬上ではやらないでもいいやあってもコストに直接影響されないものである」
- ・という考えに対して先回りして行動する

守谷慶友病院

E-MATがない施設のチーム連携の現状

NST委員会、褥瘡対策委員会
RST...などが介入している患者さんは離床が進みやすいが...

個人の意見としては、介入していない患者さんはベッドで臥床している傾向がある

問題点

リハビリでは起きているのにそれ以外の時間は臥床傾向

トイレ動作が行える能力があるのにバルーンバックが入ったまま

他にもあります...

E-MATがあればよいと思うこと

- 1.全身状態が安定した患者さんの早期離床が可能になる
- 2.退院先の選択肢が増える可能性
- 3.離床について他職種と話す機会がもっと増える
- 4.患者さん自身のできることが増える



なぜE-MAT結成が難しいのか？

- ・平均在日日数が約10日のため、必要性を感じにくい
 - ・集まる時間が取れない
 - ・加算が取れない
- ...などの意見が他職種からありました